

研究ノート

大学の地域貢献活動 白百合子育てルーム “りすぶらん・あんふぁん” 活動報告

目良 秋子 (白百合女子大学) ・ 石沢 順子 (白百合女子大学)
Mera Akiko (Shirayuri University) ・ Ishizawa Junko (Shirayuri University)

川口 潤子 (白百合女子大学) ・ 椎橋 げんき (白百合女子大学)
Kawaguchi Junko (Shirayuri University) ・ Shiihashi Genki (Shirayuri University)

土橋 久美子 (白百合女子大学)
Dobashi Kumiko (Shirayuri University)

2019年度より、白百合子育て支援ルーム“りすぶらん・あんふぁん”を試行した。地域の子育て家庭に対して大学の教育や研究を還元する一方、未就園児とその保護者と共にいる場での学生の体験的な学びを得ることを目指した活動である。本稿では、今年度の活動までの流れや企画・準備、活動の実施の様子を振り返るとともに、学生の子育て支援活動を通じた自己の学びの確認・評価を整理し、今後の大学における子育て支援活動の運営に役立てる。また、運営における課題についての検討も試みる。

1. 活動までの流れ

2019年度から人間総合学部初等教育学科と発達心理学科の2学科共同で白百合子育て支援ルーム“りすぶらん・あんふぁん”がスタートした。“りすぶらん・あんふぁん”とは、地域の未就園児の子どもと保護者のための子育て支援活動であり、大学の教育や研究を地域還元する活動の一環である。

現代の子育て家庭のニーズに合わせて子育て支援事業が様々な形で展開されている。たとえば、東京都福祉保健局による平成30年度子育てひろば事業実施施設一覧では「地域子育て支援拠点」(以下、子育てひろば)は、都内公共その他を合わせて約900か所あるとされている¹⁾。それらは各自治体の児童館や保育所において展開されているものが主である。これ以外に自治体の子ども子育て支援センターや、NPO法人の団体など運営主体も様々である。そうしたなか、近年大学主体による子育てひろばが増えてきている。例えば、教室型の共立女子大学「さくらんぼ」や相愛大学「よつばのクローバー」、ひろば型の千葉明德短期大学「育ちあいのひろば たいむ」や東京都市大学子育て支援センター「ぴっぴ」、派遣型の日本福祉大学「NHK パパママフェスティバル」などである²⁾。女子大学では、昭和女子大学の「おでかけひろば SHIP」、聖心女子大学の「マーガレットルーム」などがある。大学主体の子育てひろばは地域の子育て家庭に対して大学の教育や研究を還元するという地域連携活動となっているが、学生が大学の教室での学修を実際に未就園児とその保護者と関わり体験的に確認、再認識する往還的学修の機会ともなっている。

本学の子育て支援ルーム“りすぶらん・あんふぁん”においても、地域の子育て家庭のニーズやその背景を授業で学んだうえで、子育て支援の課題に気づき、その課題解決の方法を仲間と考え、実践するという流れになっている。各担当教員は、それぞれの専門領域から未就園児の発達を踏まえながら、親子で参加するねらいをどこに置くかを定め、活動内容を学生とともに考えていく。活動は、3年生の「初等教育演習」や4年生の「卒業研究」のゼミのなかで実施された。

2. 活動内容

“りすぶらん・あんふぁん”は、本学の“人間総合学部エデュテイメント大学”が幼児および児童を対象とした活動であるのに対し、未就園児とその保護者を対象とした活動である。地域の子育て家庭への活動の周知は、大学HP

およびチラシ配布で行い、参加申し込みはWEB上のフォーマットから行うようにした。各回15組定員(後期3回目のベビーマッサージのみ12組)としたが、ほぼ毎回定員を満たし、なかにはキャンセル待ちが出ることもあった。

会場は主に3号館1階プレイルームで、時間は10:30~12:00(2時限目)である。以下、2019年度開催した活動内容を示す。

表1. 2019年度初等教育学科 白百合子育て支援ルーム“りすぶらん・あんふぁん”活動内容

2019	活動内容と担当者
5月20日	紙コップで遊び、子どもの「作る活動」の芽生えを発見!! (椎橋げんき・学生)
6月14日	親子で運動遊びを楽しもう! (石沢順子・学生)
6月27日	ようこそ どうぶつの森へ! 森にはどんなどうぶつがいるかなあ? (目良秋子・学生)
7月3日	親子でふれあい遊びを楽しもう! (川口潤子・学生)
7月23日	絵本の読み聞かせ、まだ早い?! 五感で楽しむ絵本の世界 (土橋久美子・学生)
10月16日	描くたのしさ発見! (椎橋げんき・学生)
11月13日	触れて、感じて、確かめて (椎橋げんき・学生)
12月11日	ベビーマッサージ (育児アドバイザー 藪良江・目良秋子・学生)

3. 活動の企画・準備

各担当教員は、それぞれの演習授業や卒業ゼミのなかで、学生とともに活動の企画と準備を行っていったが、授業時間外の時間もかなり費やしていた。以下に、初等教育演習Aで実施された一例として目良が担当した活動の授業計画を示す。

表2. 子育て支援活動の事前と事後の授業内容

1. 子育て家庭の現状と支援の必要性についての講義
2. 学生自身の居住地域にある子育て支援施設の調べ学習
3. フィールドワークの事前学習
4. 2であげた子育て支援施設見学、発表
5. 「子育てひろば」についての事前学習
6. 子育て支援ルーム りすぶらん・あんふぁん活動計画立案・準備
7. 調布市立緑ヶ丘児童館子育てひろば見学
8. 子育て支援ルーム りすぶらん・あんふぁんの実践
9. 調布市立子ども家庭支援センターすこやか見学
10. 地域活動に関わる部分の自己評価・振り返りシート記入

学生は2年次「家庭支援論」などの授業で、子育て家庭の現状と課題について学んでいるが、活動を行うにあたり復習の意味で初回授業で子育て家庭のおかれている現状と課題について触れ、子育て支援の必要性について学ぶ機会を設けた。そのうえで、学生自身にそれらを引き付けて考えるきっかけとなるよう、学生の居住地にあるさまざまな子育て支援施設についてインターネットで情報収集し、どのような活動が展開されているか調べ学習を行い、発表した。また、子育て支援活動の実際を知ることが大切と考え、フィールドワークの方法・データのまとめ方等について学び、見学・フィールドワークを行った。また、2. であげた学生自身の居住地にある子育て支援施設を見学・取材し、授業のなかで仲間と報告しあい情報共有する機会を設けた。それらを参考として、“りすぶらん・あんふあん”での活動を企画・準備を行った。それと並行して、大学近隣の緑ヶ丘児童館の子育てひろばを見学し、自分たちの準備が未就園児を対象とした活動として適しているのか、環境整備に不備がないか、など職員の話をつきながら確認する機会を設けた。活動の実践後には、調布市内の別の子育てひろばを見学し、活動の振り返りの視点を得的機会とし、その後ループブック「地域活動に関わる部分の自己評価」および振り返りシートを記入した。



図 1. 未就園児のためのおもちゃ作りの研究



図 2. 動物のお面づくり



図 3. 会場設営と安全面の確認



図 4. 手遊び歌の練習

4. 当日の活動

活動当日の朝から準備と最終確認を行い、直前の打ち合わせを行った(図5)。



図 5. 直前打ち合わせの様子



図 6. 受付の様子



図 7. 6/14：親子で運動遊びを楽しもう！



図 8. 6/27 ようこそ どうぶつの森へ！



図 9. 7/3：親子でふれあい遊びを楽しもう！



図 10. 7/23：絵本の読み聞かせ、まだ早い？!



図 11. 10/16：描くたのしさ発見！



図 12. 11/13：触れて、感じて、確かめて



図 13. 12/11：ベビーマッサージ①



図 14. 12/11：ベビーマッサージ②

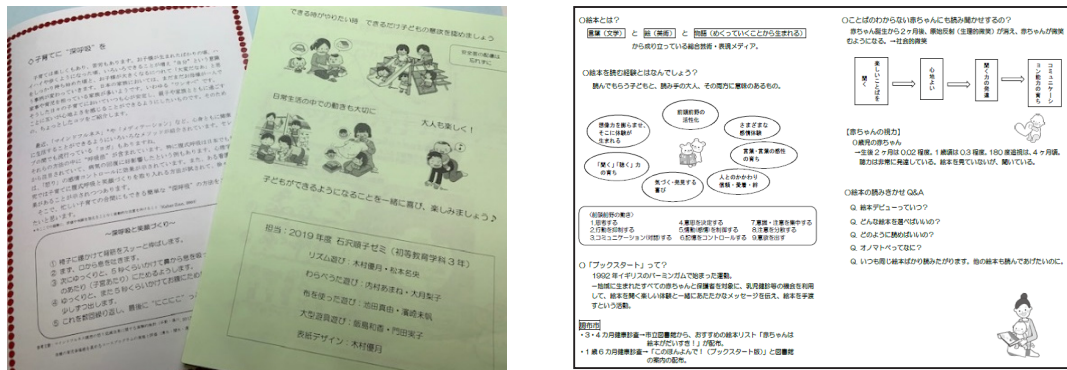


図 15. りすぶらん・あんふあんパンフレット (左：目良・中：石沢・右：土橋)

今年度は子育て支援活動を試行的に行ってみたところではあるが、参加者から学生の姿勢や内容自体について評価していただいた。また、地域の子育て世代と共に活動を作っていくという意味で、参加者の要望も取り入れるようにした。例をあげると、数ある子育て支援ひろばや活動のなかで“大学で行われる活動”ということで、何かしらの学びを期待して参加する保護者がいることが分かったため、その後各担当教員と学生で、内容とそれに関連する子育てのコラムを掲載したパンフレットを作成し、配付した。

5. 学生の学び

今年度試みた、未就園児とその保護者への活動を通じた学生の学びの深まりについて確認するために、発達心理学の眞榮城和美准教授が作成したルーブリックを初等教育学科用にアレンジしたものを活用し、学生に自己評価を活動の前後で行うよう求めた。また、初等教育学科独自で、石沢作成の自由記述式のアンケートへの回答も求めた。

学生の自己評価を見ると、おおむね地域活動にかかわることで子育て支援の意義やその必要性、また子どもの発達などについて理解が深まった様子が見られた。保護者と話をすることが保育実習においてもそう多くはない学生にとって、保護者の話を聞くことができたり、保護者とともにいるときの子どもの様子を観察することができたりする経験は、大学の学びを再確認する機会となったと思われる。中には、活動の前後で比べると自己評価が下がった学生も数名見受けられた。例えば、「(事前) 自己評価を行ってみて、やや理解力が欠けている部分や、自信のない部分があるのだと思いました。りすぶらん・あんふあんやその他の活動を残りの授業で頑張ると、もう少し主体性が持てるように心がけたいです。」と記入していた学生の事後では「(事後) ゼミでは自分の意見を積極的に言うことが、活動をより良くするために大切なことだと思ったが、なかなか意見を伝えることは難しいと感じた。しかし、皆と協力して一つのものを作りあげるといった経験ができたため、とても勉強になった。」と、自分の意見を相手に伝えるように話すことや、作業が進む中で気がついたことを切り出すことの難しさなどを感じていた。しかし、このことは今後の課題に気づくことができたとも考えられる。

今回得られた学生の自己評価を元に、どのような要素が子育て支援活動のプロセスの中に含まれとよいか担当者と検討していきたい。

6. 今後の課題

今年度初めて試みた子育て支援活動であったが、地域の子育て家庭のみならず、学生にとっても学びが深まる機会となっていた。今後も継続的に開催できるようにしたいと思うが、それには活動のための固定した場が必要と考える。今年度は3号館のプレイルームを使用したのが、発達臨床センターのケースが終了してから会場設営を行ったり、活動の度に準備を行い、片付けたりといった負担があった。授業期間内で実施するためには、前後の学生の時間の確保も課題となる。他大学のように出張という形での実施も考えられるが、さらに学生の時間をどのように確保するかとい

うことが問題となる。当面、学内での活動を実施しながら、一つ一つ課題を解決しよりよい地域貢献と学生の学修の機会としていければと思う。

謝辞

活動へ参加していただき、学生と関わること、また記録としての写真や動画の撮影を快く許可くださったお子様と保護者の方々にまずは謝意を表す。また、活動を支えてくださっている白百合女子大学の職員 壁島国子様、平井亜希子様、佐藤哲子様をはじめとする白百合女子大学の教職員各位、学生スタッフに謝意を表す。

引用文献

- 1) 東京都福祉保健局 (2019) 子育てひろば (地域子育て支援拠点) <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/kosodate/hiroba.files/H30hirobaichiran.pdf> (2019.12.30 確認)
- 2) 入江礼子・小原敏郎・白川佳子 (2017) 子ども・保護者・学生が共に育つ 保育・子育て支援演習～保育者養成校で地域の保育・子育て支援を始めよう～ 萌文書林 pp.110-153.